

2020年1~3月 真生会館ゆかりの読書会

遠藤周作を読む会



講師 金 承哲
南山大学人文学部教授

2月15日(土)
13:30~15:30

課題図書 侍

受講料1回1,000円 学生は無料
詳しくは裏面をご覧ください。



お申込み・お問合せ

一般財団法人真生会館

〒160-0016 東京都新宿区信濃町33-4

Tel:(03)-3351-7121 Fax:(03)-3358-9700

E-mail: gakushu@catholic-shinseikaikan.or.jp

URL: <http://www.catholic-shinseikaikan.or.jp>

申込書 遠藤周作を読む会 2020/2/15

お名前:

電話番号:

ご住所、EMAILアドレスなど

ご記入日 年 月 日

<講師のご紹介>

金承哲氏（キム・スンチョル）



韓国の高麗大学で物理学、メソジスト神学大学大学院でキリスト教神学（組織神学）を専攻。スイスのバーゼル大学神学部で、1989年に神学博士学位（Dr. theol.）を取得、その後韓国の釜山神学校で教鞭をとった。2001年来日。2011年まで金城学院大学教授を経て、2012年より南山大学人文学部教授、南山宗教文化研究所第一種研究所員（2016年より同研究所所長）。専門はキリスト教神学。宗教間対話、宗教と科学の対話、キリスト教文学を研究、各分野において著書、翻訳書、論文等多数。『遠藤周作一痕跡と痛みの文学』（2017、ピアトル）（韓国語）があり、遠藤周作の『沈黙の声』を韓国語に翻訳した。

最新の著書『遠藤周作と探偵小説: 痕跡と追跡の文学』は当館一階の図書コーナーにありますので、どうぞご自由にご覧ください。

作品解説 侍

慶長遣欧使節団を率いた地方武士の支倉常長の人生を基にして、遠藤周作は長谷倉六右衛門という侍の一生を物語る『侍』

（1980年）を書いた。彼は、太平洋を横断し、ノベスパニヤを経てキリスト教の総本山のローマまで行く。思いもよらなかったこの壮絶な旅は、侍の人生に消すことのできぬ痕跡を残した。

『侍』は、その侍の旅の痕跡を追いかける遠藤の魂の記録である。侍は、非自発的に洗礼を受け、一生その洗礼の痕跡を追跡していた遠藤自身の自画像だったのである。

この講座では多様なジャンルの作品を扱います。講師から作品についてのお話を伺い、受講者の皆さんと自由に意見交換を行いますので、どうぞお気軽にご参加下さい。書籍をお持ちの方は、ぜひご持参下さい。

